

## テーマ：「みなとまちづくりの方法論」

講演者 樋口明彦（ひぐち あきひこ）

九州大学大学院工学研究院建設デザイン部門助教授



今、ご紹介にあずかりました九州大学の樋口でございます。唐津の今の取り組みについて、私が存知上げている範囲でのご報告と、これからどんな取り組みをしていったらいいのかについて、私の考え方を皆さんにお話したいと思っております。

唐津は、みなとまちづくりということで、日本の各地で市民の方と一緒に港を、今までの港よりもっと市民に開かれた、地域に開かれた港にしていこうという取り組みが進められています。つい最近までの港湾計画では、大島の向こう側に埋立地を造って、その沖には長い防波堤を建設する計画がありました。最近、港湾計画の見直しが行われた結果、市民に開かれた港づくり、環境を大事にした港づくりといったことが取り組むことになりました。

先ほど市長さんからもご説明があった「みなとまちづくり」について、アクションが、今、始まっていて、一通り、市民の皆様を代表された方たちが中心になって、「こんな港にしていこう」という議論が、だいたい終わりました。それを形にしていく作業に、今、入っていて、デザインの専門家が集まって、「住民の皆さんが言ったこの言葉っていうのは、どういうふうに形にしていけばいいか？」とか、「町と港をつなぐっていうのは、何をしたらいいのか？」というようなことを、色々言いながらも、かなり汗をかきながら、作業をやっている最中です。

トヨタ自動車の本拠地で豊田という町があります。そこに住んでいらっしゃるコミュニティのおじさん達が自分達で管理組織をつくって、豊田市から全面管理委託を受けて、自分達で好きに公園管理をしています。そこで、そのおじさん達が、つくった公園のマップのガリ版刷りをしています。また、もともと何もないただの土のグラウンドで、端っこのほうに桜が植えられているだけだった公園をほじくってみたら、川の跡が出てきたり、田んぼの跡が出たので、赤米の栽培、魚とり等をできるように整備しました。自分達がやりたいことを自分達でやるということも大事じゃないかなあと思っています。公共事業にすぐ頼りがちですが、ゆっくり進めていくことが大事だと思います。

唐津は、世界的に見ても、範囲が広い水辺の再開発になっています。唐津の10何万の人がみんな、「唐津の港はよかところになりよるばい」といった感じの港づくりをゆっくりゆっくり進めていけば、気がついたら、外から「唐津はいいところだ」と言って、移り住みたいという人も増えてくる。唐津の人のマナーも良くなって、ごみもなくなる。子どもも安心して遊べる場所も増えてくる。なんというようなことになるとと思います。